



1 富士山域

《山梨県・静岡県》

富士山の世界文化遺産としての価値は、富士山が類まれな「景観」をもとに「信仰」と「芸術」の対象になってきた点であると考えています。この富士山の価値にとって特に重要な地域（標高約1500m以上）を資産範囲としています。その理由は有名な絵画に描かれた範囲が重なり合う部分にあたり、信仰の上では神聖性の境界のひとつであった「馬返」以上にあたるからです。この範囲の中には、浅間大神が鎮座するとされる八合目以上や、富士講信者の修行の道であった「御中道」、現在発行されている千円札等に採用された本栖湖からの景観が含まれています。

1-1 山頂の信仰遺跡群《山梨県・静岡県》

山頂には、火口壁に沿って神社等の宗教関連施設が分布しています。富士山への信仰登山が開始されると、寺院の造営や仏像等の奉納が行なわれるようになり、山頂部における宗教行為が体系化されていきました。山頂において「ご来光（日の出）」を拜むことや、8つの頂部を巡る「お鉢めぐり（八葉めぐり）」の行為は、現代においても多くの登山者が行っており、これらを通じて富士山信仰の核心が現代にも確実に受け継がれています。